



公式X (旧Twitter)

<全国身体障害者施設協議会>

第46回全国研究大会東北大会



【東北ブロック身障協・シンボルマーク】

TOHOKU-B6(SIX)



シンボルマークの意味

1. 太陽・月・人と人・笑顔・支え合う姿・相互関係・東北6県(6つの太陽フレア)をイメージしている。
2. 支え合う姿、相互関係は正しく「ケア」の本質で「ケア」に携わる仕事に相応しい。相互関係は常に入れ替わりながら関係を作り上げていくもの。一方的な関係ではない。すなわち人と人が手を取り合い、調和し共に生きる社会を示している。
3. 太陽も月も人々にとって不可欠のもの。太陽は昼、月は夜にすべての人々(障害の有無に関係なく)を平等に照らし、相互補完(それぞれに役割をもって)しあっている。太陽は熱き心、明るさをイメージさせ、生命の根源である。月は闇夜で足元を照らす道をイメージさせる。明るい時(良い時)も暗い時(悪い時)もそれぞれが役割を持ち照らすイメージ。

本ニュースについて

本ニュースは東北ブロック独自に(経費も含め)発行するものです。コロナ禍以降、本研究大会の参加者はコロナ禍前に比べ少ない状態が続いています。なかなか参加しづらい状況であることは重々理解しておりますし、私たちも同様の思いでいます。一方、実践発表・研究発表の内容は年々洗練・充実されていると認識します。

こうした発表に触れる数少ない機会を、より多くの方に活用して頂けないことは、ケアの質の向上と言う視点、また最近言われる地域移行の風の中で、障害者支援施設の役割機能を発信する場をみすみす失う事にもなりかねません。そうした危機感と東北ブロック全施設が一体となって準備する大会に、少しでも関心を持ってぜひご参加頂くために発行することとしました。

テーマ 『新しい障害者支援施設の想像を目指して～共に響き合うケアコミュニティの実現・地域の真ん中で私らしく暮らす～』 —地域資源としての障害者支援施設の未来にむけて—

※共感や想像力を強調し、本来のケアコミュニティの構築に向けた意欲と情熱を示す。

※「新しい障害者支援施設の創造」は、国連の総括所見より障害者の地域移行が求められている今、テーマとして必要との思いがある。

※地域資源の中核としての障害者支援施設の未来に向けて。

※入居者、利用者の生活・居住・自己実現をイメージ。(支え合う・ケアのイメージで。)

※環境整備と相互理解が整えば実現可能であるという意味を平易な言葉を組み合わせることで広く連想できればいいとのイメージです。

身障協職員研究大会第47回大会開催に向けて

〈全国身体障害者施設協議会会長 白江 浩〉

東北大会を9月に控え、関心と興味を持って頂くために本ニュースが発行されることとなりました。私は昨年5月に身障協会長を仰せつかり、その使命と共に東北ブロックの一員としても、是非とも多くの皆様に研究大会にご参加頂き、身障協が取り組んでいる様々な実践・研究等を発信したいと強く願っております。

こうした発表が全国の会員施設で広く共有され、ケアの質を高めることに繋がり、そして入居者・利用者の自己実現、自己実現支援の質の向上となり、障害者支援施設が選ばれる支援として、多くの方に理解され発展することを切に願っております。そのためにも、コロナ禍を上回る発表や参加を得て、ますます発展して欲しいと思います。そこで、多くの方々の参加につなげるべく、東北ブロックとして参加呼びかけの取組みを始めました。

その思いが皆様とも共有でき、仙台でお会いできるのを願っております。

東北大会開催に向けて

〈東北ブロック身体障害者施設協議会副会長 荒井 与志久〉

皆様には、日頃からたいへんお世話になっております。この度の、全国大会の参加に迷っておられる方も多いのかと、拝察いたします。

開催地であります東北は、松尾芭蕉の「奥の細道」の中でも歌われていますように、風光明媚な海や山々や温泉に囲まれており、海や山の幸はもちろんのこと、甘くて弾けるようなフルーツ等々、また日本酒やワインの美味しい酒蔵も数多くあり、まさにグルメ大国であります。是非、皆様にも東北の味覚を堪能して頂きたいと思っております。

また、今年度は、東北ブロック全体で企画しておりますので、東北ブロックのひとりとして、多くの方々の参加を心からお待ち申し上げます。

プログラム 日程

日程(1日目)

- 12:00～13:00 受付
- 13:00～14:00 開会式・表彰式
- 14:00～15:00 行政説明
- 15:00～15:15 休憩
- 15:15～16:05 基調報告

- 16:05～16:15 次期開催県挨拶
- 16:15～16:30 休憩
- 16:30～17:50 記念講演
- 18:50～20:30 情報交換会

日程(2日目)

- 9:00～12:05 実践発表
- 12:05～13:00 昼食・休憩
- 13:00～14:50 研究発表
- 14:50～15:00 閉会



宮城県・むすび丸



山形県・きてけろくん

実行委員会の取り組み・経緯

○実行委員会の取り組み・経緯

年月日	内容	決定したこと
2023年4月25日 第1回実行委員会	1 経緯と全国大会概要 2 今後の進め方 3 群馬大会視察について	自己紹介（初顔合わせ） 仙台開催 決定 （江陽グランドホテル）
2023年5月23日 第2回実行委員会 （会場視察）	1 テーマについて 2 記念講演について 3 群馬大会派遣者について 4 情報交換会・展示販売について他	テーマの絞りこみ 記念講演候補者4名に
2023年7月21日 22日	群馬大会視察 実行委員メンバー5名派遣	
2023年7月27日 第3回実行委員会	1 テーマについて 2 記念講演について 3 群馬大会派遣報告・感想 4 情報交換会・展示販売について他 5 作業部会及び応援委員について	記念講演講師 決定 学校法人仙台育英学園 仙台育英学園高等学校 硬式野球部監督 講師：須江航 氏
2023年9月20日 第4回実行委員会	1 テーマについて 2 記念講演について 3 情報交換会・展示販売等について 4 今後の進め方について 5 オンデマンド配信について	テーマ 決定 新しい障害者支援施設の創造を目指して ～共に響き合うケアコミュニティの実現・地域の真ん中で私らしく暮らす～
2023年11月22日 第5回実行委員会	1 記念講演について 2 情報交換会・展示販売等について 3 役割分担について 4 広報・PRについて	アトラクション 決定 すずめ踊り実演 東北絆まつり映像
2023年12月26日 第6回実行委員会	1 情報交換会について 2 実践発表呼びかけ 3 役割分担について	「おもてなし」の気持ちを前提に検討
2024年2月28日 第7回実行委員会	1 役割分担について 2 実践発表呼びかけ 3 広報周知・おもてなし	「おもてなし」の気持ちを前提に検討
2024年3月26日 第8回実行委員会	1 役割分担について 2 広報周知・おもてなし 3 合同会議について	実行委員会と作業部会委員の合同会議決定
2024年4月30日 第9回実行委員会 及び作業部会	1 見学及び質疑 2 実行委・作業部会・応援委員体制について 3 実践発表 4 広報周知・おもてなし	第1回合同会議開催 作業部会委員初顔合わせ会場 見学及び体制説明

記念講演



記念講演 講師

(プロフィール)

○須江(すえ) 航(わたる) 氏

(1983年4月9日生まれ)

埼玉県さいたま市出身。

野球指導者及び情報科教諭。

＝経歴＝

仙台育英高等学園野球部出身。2年秋からはグラウンドマネージャーを務め、3年時には春夏連続で甲子園大会に記録員としてベンチ入りをしている。高校卒業後は、青森県の八戸大学に進学。入学後は野球部に入部し、学生コーチを務める。大学卒業後は恩師の誘いを受け、仙台育英高校の系列校の秀光中等教育学校に着任し、創部間もない野球部の監督に就任。その後は長く中学野球の指導者として実績を残し続け、母校・仙台育英高校野球部の監督に就任。2022年8月22日、第104回全国高等学校野球選手権大会で宮城県のみならず、東北としても悲願であった全国制覇を達成した。

決勝戦の試合後のインタビューにて、コロナ禍の中の高校生たちの思いを代弁して「青春って、すごく密なので」と言葉を発し、「苦しい中で全国の高校生たちが頑張ってる、今日、最後に(ウチが)ここに立ったというだけなので…全国の高校生に拍手を送って下さい」と締め括り、感謝の意を表した。この言葉「青春って、すごい密なので」は同年11月4日の新語・流行語大賞の候補30語(No.17)にノミネートされ、のちに同年12月1日に選考委員特別賞を受賞した。12月4日放送の『情熱大陸』では須江氏のチームづくりが取り扱われた。

＝著書＝

- ・二度消えた甲子園 仙台育英野球部は未曾有の苦境をどう乗り越えたのか(2020年8月4日)
- ・仙台育英 日本一からの招待(2022年12月2日)
- ・伝われ言葉。失敗から学んだ言葉たち(2023年3月3日)

情報交換会

●すずめ踊り発祥の由来

仙台のすずめ踊りは、慶長8年(1603)、仙台城移徒式(新築移転の儀式)の宴席で、泉州・堺(現在の大阪府堺市)から来ていた石工たちが、即興で披露した踊りにはじまるといわれています。

西国らしい小気味よいテンポ、躍動感あふれる身振り、伊達家の家紋が「竹に雀」であったこと、はね踊る姿が餌をついばむ雀の姿に似ていたことから、いつの頃からか「雀踊り」と名付けられるようになったと言われ、長く伝えられることとなりました。

戦前までは石切町(現在の仙台市青葉区八幡町)の石工たちによって踊り継がれ、毎年、大崎八幡神社の祭礼には「雀踊り」を奉納するのが通例となっていました。しかし、戦後は「雀踊り」も次第に継承者を失い、同町石切神社にてわずかに残った石工にひっそりと受け継がれるだけとなっていました。



キビタン©福島県



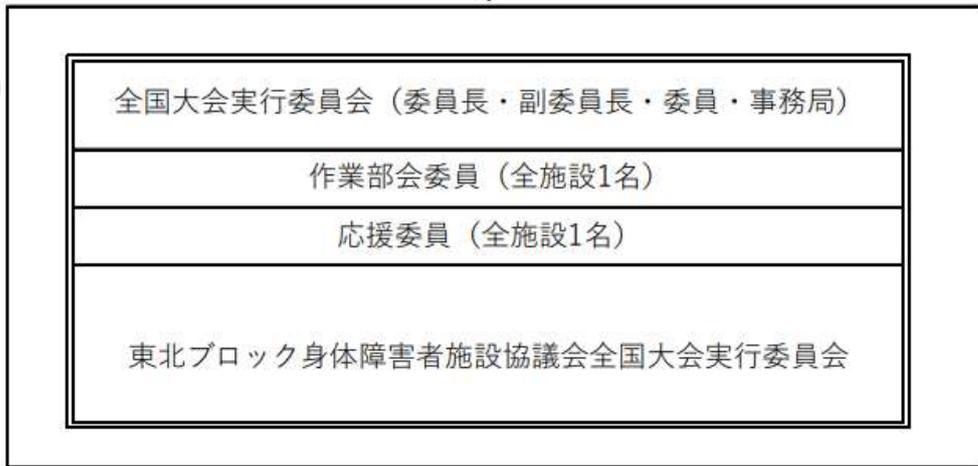
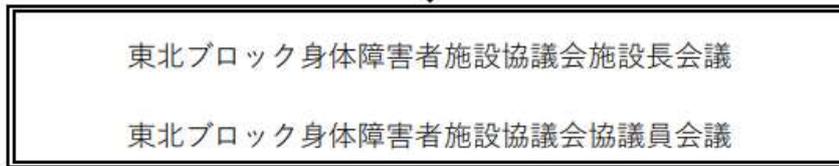
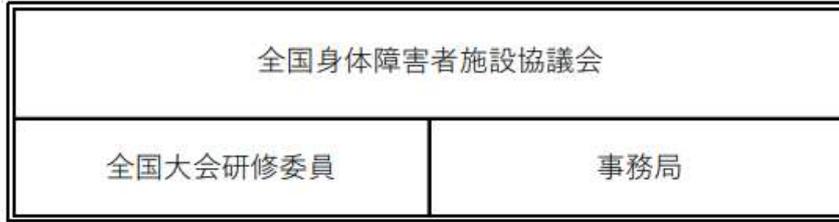
秋田県・んだッチ



<体制>



岩手県®わんこぎょうだ



マスコットキャラクター「いくべえ」

青森県・いくべえ

会場&周辺案内



仙台グルメには牛タンやセリ鍋、麻婆やきそば、ずんだなど紹介できないほどあります。また、夜は国分町という繁華街もあります。

江陽グランドホテル

〒980-0014
宮城県仙台市青葉区本町2丁目3-1
TEL:022-267-5111 FAX:022-265-2252



お問い合わせ

022-281-1200

Email: arimama@beach.ocn.ne.jp
http://www.touhoku-b-shinsyokyo.com/

公式X

